

1 1. その他中心市街地の活性化に資する事項

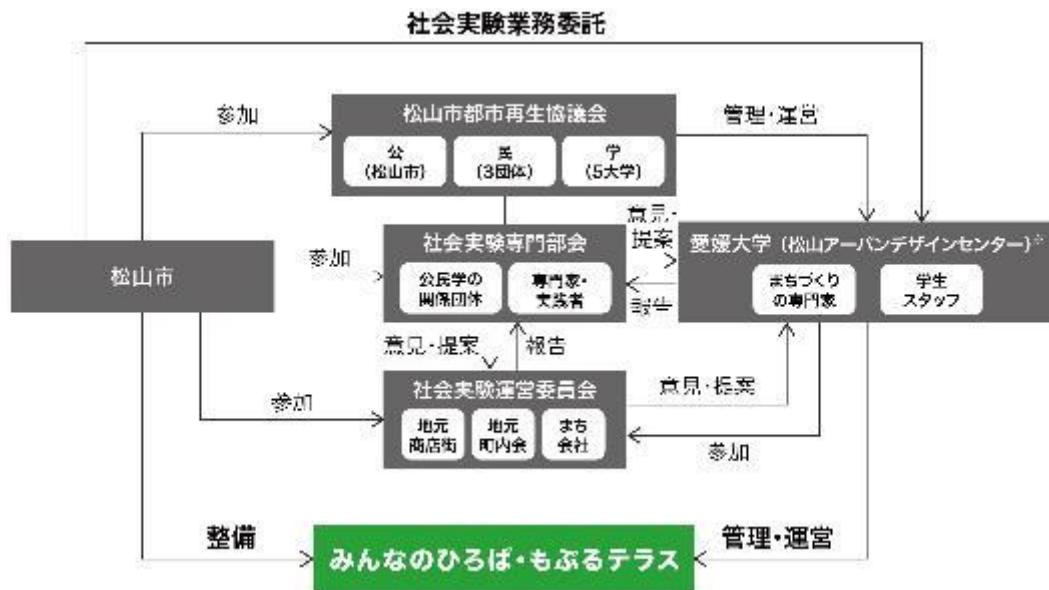
[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

(1) 個別事業に関連した実践的・試行的な活動の内容・結果等

[松山市中心市街地賑わい再生社会実験]

【概要】

まちなかに点在する青空駐車場や空き店舗などの低未利用地を広場や交流スペースに転用し、様々なイベントを実験的に実施した。公・民・学が連携する体制の下、専門家や地元と意見交換を行いながら管理・運営を行い、賑わい再生に向けた効果的・持続的な仕組みや中心市街地の居住環境改善の観点で効果検証した。



●運営体制

■補足

管理・運営の受注者は、期間によって異なり、H26.11～H28.3は「復建調査設計・まちづくり松山共同事業体」、H28.4～H31.1(テラスはH30.11まで)は「愛媛大学(UDCM)」である。

●広場・交流スペース概要

	広場(みんなのひろば)	交流スペース(もぶるテラス)
運営期間	H26.11～H31.1	H26.11～H30.11
面積	約370㎡	約80㎡
設備	芝生広場、ミニ噴水、土管、手押しポンプ、ベンチなど	イス・テーブル、ライブラリー、多目的トイレなど
利用時間	月～金 10:00～20:00 / 土日・祝日 10:00～18:00	
利用形態	一般利用・占有利用(無料)	
利用者数	延べ利用者数：約22.8万人 約4,900人/月	延べ利用者数：約9.1万 約1,800人/月
外観		

みんなのひろばでは計 83 件（月平均約 2 件）のイベントが実施され、延べ利用者数は約 22.8 万人（月平均約 4,900 人）であった。もぶるテラスでは計 865 件（月平均約 18 件）のイベントを実施し、延べ利用者数約 9.1 万人（月平均約 1,800 人）であった。開催されたイベントのうち、一般の個人・団体の開催率は、ひろばで約 4 割、テラスで約 6 割であった。中央商店街をはじめ、様々な主体と連携しながら、みんなのひろばでは、マルシェや音楽ライブ、フリーマーケット等が実施され、もぶるテラスでは、商店街を回るスタンプラリーの実施や絵本の読み聞かせ、各種ワークショップ・講座等、多様なイベントが展開された。



●マルシェ開催の様子



●絵本の読み聞かせイベントの様子

【効果及び効果検証】

みんなのひろば及びもぶるテラス整備前と比べ、周辺道路の歩行滞留者数が 3 倍以上に増加したことから、賑わい再生としての効果が見られた。さらに集客数の多かった「飲食・物販イベント」や「子ども向けイベント」を実施する一般の個人・団体を増やしていくことが、運営団体の負担を軽減し、持続的な賑わい再生に繋がると考えられる。

周辺住民アンケートの結果では、回答者のうち約 5 割が「ひろば・テラスができて非常に良かった」と回答し、「まちなか居住の魅力が向上した」という回答が約 6 割、さらにひろば・テラスを重要とする理由は「子育て世代の住民のため」という回答が約 7 割であったことから、中心市街地の居住環境の改善にも効果が見込まれる。

〔2〕都市計画等との調和

(1) 第 6 次松山市総合計画

「笑顔が『集まる』プログラム」の主な取組みとして「中心市街地のにぎわいづくり」が位置付けられている。

(2) 松山市都市計画マスタープラン

「四国の顔となる都心として、賑わいあふれるまち」を将来像に掲げる都心地域に、中心市街地活性化区域の全域が含まれている。都心地域は、3 つの将来目標（①魅力ある商業・観光・居住空間の形成、②人や環境にやさしい道路・交通の充実、③快適で美しい都心環境の形成）を定めている。

(3) 松山市立地適正化計画

中心市街地活性化区域のほぼ全域が都市機能誘導区域の都心地区に位置付けられており、生活サービスを誘導するエリアとして設定されている。

【3】その他の事項

■環境モデル都市

松山市は、平成25年3月に温室効果ガスの大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする「環境モデル都市」に選定された。

環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」

国内屈指の豊富な日射量（過去5年間の平均日照時間は約2090時間）を地域特性とし、太陽エネルギーをより有効に脱温暖化と産業創出に活かす「松山サンシャインプロジェクト」が特徴。「再生可能エネルギー」「ライフスタイル」「事業活動」「脱自動車依存型コンパクトシティ」「豊かな自然環境」「環境学習」の6つの基本施策により、持続可能な低炭素社会の構築を目指す。

[取組み方針]

1. 松山サンシャインプロジェクトの推進
2. スマートコミュニティの推進
3. コンパクトシティの推進
4. 地域循環システムの推進

■SDGs未来都市

松山市は、令和2年7月にSDGs（持続可能な開発目標）を推進し、経済・社会・環境の三側面に新たな付加価値を生み出す先駆的な取組にチャレンジする自治体として、「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定された。

経済・社会・環境が好循環する持続可能なまち“観光未来都市まつやま”を目指して

世界に誇れる松山城や道後温泉などの観光資源をはじめ、太陽の恵みが豊かな地域特性や、お接待の精神が宿る地域コミュニティ、多様な主体が活躍できる文化的土壌など、先人から受け継がれてきた松山の多くの宝を生かし、安全で環境にやさしい“観光未来都市”を目指すため、産・学・民・官・金などのさまざまなステークホルダーとの協働の場である松山市SDGs推進協議会（プラットフォーム）を構築し、持続可能なまちづくりを推進する。